

豪雨災害時の対応・備えなどについて

—整備水準を超える洪水への対応について—

基本的方針

整備水準を超える洪水にあっても県民の生命を守り、甚大な被害を回避するため、「ながす」、「ためる」、「そなえる」、「とどめる」4つの対策を軸に流域治水を推進し、将来にわたり安心して暮らすことができるよう、水害に強い地域づくりを目指します。

鬼怒川（関東・東北豪雨）との対比

鬼怒川の基本情報	県内最大規模	鬼怒川と同等規模
	(野洲川)	(木津川)
幹川流路延長： 約 177 km	約 65 km	約 99 km
流域面積： 約 1,760 km ²	約 387 km ²	約 1,596 km ²
雨の状況（最大値）（関東・東北豪雨） —鬼怒川流域— 国交省資料	（平成 25 年台風 18 号） —琵琶湖流域—	
1 時間雨量： 62.0 mm（栃木県日光市五十里）	62 mm（大津市葛川）	
24 時間雨量： 551.0 mm（栃木県日光市五十里）	592 mm（大津市葛川）	
総雨量： 647.5 mm（栃木県日光市今市）	635 mm（大津市葛川）	

基幹的対策「ながす」対策

滋賀県河川整備計画（河川整備 5 カ年計画）に基づく河川整備

○大河川（流域面積 50km²以上）：

戦後最大相当の洪水に対応（30～50 年確率）

○中小河川（流域面積 50km²未満）：

10 年確率程度の降雨により想定される洪水に対応

○OT ランク河川： 堤防強化（浸食・浸透対策など）

○維持管理： 河川維持管理計画に基づく巡視・点検

緊急性の高い箇所から順次維持管理を実施

※河川整備率（10 年確率対応）： 55.7%（H26 年度末）

※T ランク河川 調査・解析： 24 河川、 対策済： 13 河川（5.1km）

洪水時の被害を最小限にするための対策「そなえる」対策

○洪水時の連携

（平常時の備え）

雨量観測所や水位観測所を集中管理し、雨量や水位等の情報や雨量や水位が危険水準に達したことを自動的にオンライン伝達する「滋賀県土木防災情報システム」を整備

ホームページや「しらしが（しらせる滋賀情報サービス）」、地上デジタルテレビ放送（NHK、びわ湖放送）による河川水位情報等防災情報をリアルタイムで住民等に提供

河川防災カメラによるリアルタイム映像を配信するなど「より早く」、「より分かりやすく」、「より確実に」するための整備を推進

※雨量計： 163箇所、 水位計： 135箇所、 河川防災カメラ 16箇所
※提供情報： 気象、洪水予報・水防警報等、レーダー雨量、雨量、水位、ダム観測、水位予測、土砂災害降雨危険度、河川防災カメラ映像

(緊急時の体制)

水防活動に関する気象予報警報の通知に伴い水防体制に入る

水防体制下では、降雨状況や河川水位等の監視を行い、状況に応じて現地確認等の情報収集を行い、水防活動に必要な情報を関係機関と共有し、水防活動や避難行動を支援

※洪水予報： 8河川、 水位周知： 10河川、 水防警報： 10河川
※大雨、洪水に関する警報 (H26年度)： 延べ20日、 同注意報： 延べ49日

○水防・避難体制の強化

水防活動が的確に行えるよう、水防上危険が予想される箇所について、県水防計画で「重要水防箇所」と位置付け、関係市町と情報を共有し、水防活動が十分行われるよう支援

水防活動に必要な資機材を備蓄し、必要量を確保

地先の安全度マップや浸水想定区域図を作成し、市町のハザードマップ作成や住民の避難行動開始の判断等を支援

※水防計画、水防訓練、水防研修会、ダム管理演習
※水防資器材の備蓄： 水防倉庫 147箇所
※地先の安全度マップ (1/10、1/100、1/200)、 浸水想定区域図： 15河川

水害に強いまちづくり「そなえる」、「とどめる」対策

洪水が起こりそうな時にも正しい判断ができるよう、地域の防災力を高めるため「地先の安全度マップ」を基礎情報に、地域の特性に応じた避難計画を検討

万一、逃げ遅れても命が守れるよう避難空間を確保するなど、水害リスクを踏まえた安全な住まい方への転換

※出前講座 (H26年度以降)： 延べ100団体 (約6,300名)
※不動産取引における水害リスクの情報提供
※浸水警戒区域の指定 (耐水化建築ガイドライン、宅地嵩上等への支援制度)

これら洪水時の被害を最小化するための取り組みについて、河川管理者、関係機関(防災部局等)、関係市町等と連携し、各圏域の「水害に強い地域づくり協議会」において検討し、実施しているところ